小学校における保健室登校の子どもに対する支援のあり方

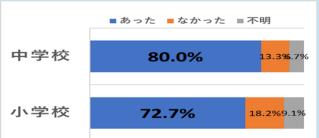
松本市養護教諭部会Bブロック

1 保健室登校の現状と課題

養護教諭が関わった保健室登校、相談室登校等の事例が あった学校は小学校約7割、中学校8割であった。

- ○保健室登校の子どもがいるが、 どのように関わったら よいかわからない。
- ○日常執務の中で子どもたちと関わるのに<mark>自信が持てない</mark> ことがある。
- 〇保健室登校について教職員の考え方の違いにより、<mark>理解を得られないこともある。</mark>一人職のため同じ立場で気軽に相談できる仲間が少ないので気持ちが落ち込むことがある。また、子どもや教職員との関わりに影響することが多い。

《 松本市内の小中学校の養護教諭が関わった保健室登校 相談室登校等の別室登校の事例があった学校 》



保健室登校ってむずかしい!!



2 Bブロック会での実践活動

- ○先輩養護教諭からの学び 子どもを見極める力やコーディネーター力, 組織体制の中での養護教諭の位置,管理職の理解 同僚からの信頼
- ○保健室のあり方についてグループワークで学び合う 安心・安全の保健室 誰でもいつでも来室してよい場所
- ○保健室登校事例検討会・スーパーバイザーからの指導 「 K さんが教室で楽しく過ごせるためには 」



- ◆見極める力
- ◆居場所づくり
- ◆K さんに寄り添い,K さんの自己肯定感を 高める
- ◆保護者の支援 外部機関につなげる

事例をもとにみんなで考え, 共有し, 学び合いができた



養護教諭的資質向上 才11万寸:中

3 成果

養護教諭としての子どもへの向き合い方

保健室経営のあり方 を仲間から学び合い 再確認できた 先輩のような 養護教諭に なりたい!

自信をもって 子どものことを 】番に考えていきたい 養護教諭自身、保健 室登校について法的 根拠を理解する

4 今後の課題



養護教諭の複数配置,マンパワーの拡大



保健室登校の子どもへの理解

発信

養護教諭自身も保健室登校について 法的根拠を理解し,教職員に発信していく。

多様化する子どもたち。子どもたちが笑顔で登校できるように支援していくためにも,養護教諭自身も振り返り, 保健室のあり方を再認識し,そしてアップデートしていきたい。